

タコつぼ心筋症

強いストレス 発症の引き金

心身健康

ドクターに聞く

循環器内科医

上野勝己さん

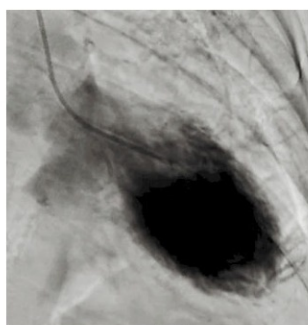
松波総合病院
心臓疾患センター長
(羽島郡笠松町田代)



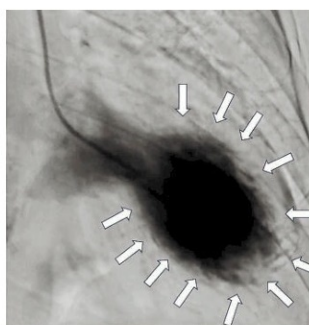
一人の女性患者が胸痛で来院されました。激的な痛みではないのですが、鈍痛が持続しているのです。心電図を取ると急性心筋梗塞が強く疑われました。緊急カテーテル検査では冠動脈はきれいに流れているのに、左心室の先端がバルーンのように膨らんで収縮しないのです。写真。この病気は、1990年に広島島の医師が発見し、タコつ

ぼ心筋症と名付けられました。死に至ることもありすが多くは自然に軽快して正常に戻ります。

この患者から話を聞き直してみると、長年の連れ合いからそれまでの結婚生活を全否定するような言葉を投げかけられ、心が引き裂かれるほどのストレスを受けたそうです。胸痛は、その直後から始まりまし



左心室拡張期



左心室収縮期

タコつぼ心筋症患者の左心室。右の収縮期で、左心室の先端がボール状に膨らんで収縮しないためタコつぼのように見える

この病気は、重度の精神的なショックに伴って放出される大量のストレスホルモンが心筋傷害を引き起こすことで発症すると考えられています。病は気からとはいいますが、ストレスに対する一瞬の「こころ」の反応によって一瞬間違えば死にかねないほどの病気になってしまうのです。

このように、心の健康は病気にならないための鍵と言えますが、実は、心の健康は、病気が回復し元気に生きていくためにも大切な鍵となるのです。近年増加しつつある心不全患者で65歳未満の3分の1は「うつ」を併発するといわれています。心不全による身体的制限や不安がうつ状態をつくり出すのですが、逆に「うつ」を併発すると心不全が重症化しやすくなるということが指摘されています。病気をした後、体力の回復だけでなく、心の健康の回復もとても大切なことです。

リハビリテーションは体力を回復するためのもので単純に思われがちですが、それだけではなくて、病気になるって傷ついた心のケアと回復を目指しているのです。毎日のリハビリで少しずつ蓄積される自分自身に対する自信は心の健康をもたらし、それは今日一日を元気に過ごすためのエネルギーとなります。

近年、急速な進歩を遂げてきた低侵襲の内視鏡手術やカテーテル治療の進歩で、体力のない高齢者でも高度な治療が受けられるようになり、長寿を得る人が増えてきました。しかし現実には、1人暮らしの高齢者も増え続けており、一日中誰とも会わず、会話もなく過ごすことが多いと嘆く患者も多いのです。そうして引き起こされる「うつ」によって病気が再発したり悪化したりすることが分かってきています。

運動は、心の健康を保つ良い方法です。リハビリサービスを受けたり趣味のサークルに参加したりするのもよいでしょう。人付き合いが苦手なら、一人でぶらりとする散歩などを習慣にしてもよいでしょう。